

(別紙様式)

教科用図書調査に関する報告書

教 科	国 語
-----	-----

発行者 略 称	教科書名	選定委員会から付された意見
東 書	新編 新しい国語 1 新編 新しい国語 2 新編 新しい国語 3	・ 古典の内容に力を入れており、丁寧に記載されているため、経験の浅い教員でも生徒に楽しく教えることができる。 ・ 「読書の案内」では、本の紹介が充実している。子どもたちの読書量が少なくなっている中、様々なタイトルをつけて、1年間で100冊以上紹介しているところは良い。 ・ 作者の説明に顔写真が入っており、興味をひくことができる。また、そこから他の作品に向けての関心を広げていくことができて良い。 ・ 古典の教材として、「浦島太郎」など、生徒にとって親しみやすい教材が豊富に取り上げられている。 ・ 「みらいへの扉」では、SDGs等、現代的課題が取り上げられている。 ・ デジタルコンテンツは生徒にとって使いやすい。 ・ 思考ツールを多々掲載しているが、使いこなせるかどうかは教員の力量にもよる。 ※複数の選定委員から採択にふさわしい教科書との意思表示があった。
三省堂	現代の国語 1 現代の国語 2 現代の国語 3	・ 3学年に渡って、思考するための手立てがわかりやすく取り上げられている。 ・ 1年では「グループ新聞を作ろう」、2年では「情報誌を作ろう」、3年では「名言集を作ろう」等、まとめの活動として、話し合いながら作品を作りあげる活動を取り入れているところが、国語の発展的な学習としては興味深い。 ・ グループディスカッションを多く取り入れるように設定されている。また、学年が上がるにつれて質が向上するように設定されている。 ・ ビブリオバトル、ブックトークなど、国語的な活動が豊富に設定されており、教員が効果的に活用できれば取り組みやすい。 ・ 様々な情報が掲載されているため、生徒にとって本来学ぶべき本文の部分よりも、他の情報に目移りしやすい。 ・ 「学びの道しるべ」には、本文を読み解くときの流れが掲載されていて良い。一方で、一見して何を学ぶべきか捉えづらい面もある。 ・ 掲載されている内容は興味深いのが、文字が目に入る前に絵が目に入ってくる印象がある。 ・ 各単元とSDGsとの関連がややわかりにくい。

教 出	伝え合う言葉 中学国語 1 伝え合う言葉 中学国語 2 伝え合う言葉 中学国語 3	・各単元の構図が統一されており、生徒が見通しを持って学ぶことができる。 ・落ち着いて読み込めるような紙の色となっている。 ・「学びナビ」では、何を学んでいくのか見通しがもてる。一方で、授業者が工夫しにくい一面もある。 ・人物の紹介をしている部分もあり、読みやすくわかりやすい。 ・各単元の後半に設定されている学習活動の流れが捉えやすい。 ・それぞれの題材に関連する図書が紹介されているのが良い。 ・SDGs に関しては、どの単元でも満遍なく取り扱っている。 ・子どもの権利条約を取り上げているところが良い。 ・1年「“エシカル”に生きよう」、2年「水の山富士山」の地下水の話題等、現代的課題を取り入れているところは良い。 ・守られる権利に対しての記載は、最近の家庭のあり方が多様化しているため、国語科で取り上げるべきか検討が必要である。 ・デジタルコンテンツが少ない。 ・非常にわかりやすい構成となっている。一方で、説明的な文章が多く、物語や散文、詩歌などが少し足りない。 ※複数の選定委員から採択にふさわしい教科書との意思表示があった。
光村	国語 1 国語 2 国語 3	・学習内容が段階的に記載されているため、生徒が主体的に取り組みやすい。 ・「まなびへの扉」がわかりやすい。また、「学びの鍵」でも、インデックス表記がされており、横書きに加えて、パターン化、図式化されており、何を学ぶのかが捉えやすい。 ・SDGs との関連もわかりやすく表記されているなど、配慮されている。 ・「広がる読書」や「本の世界を広げよう」等、多くの本が紹介されており、生徒にとって本に親しみ、本を読む機会を増やすきっかけになるためにも良い。 ・力試しについては、デジタル解答が可能な形になっており、書くことが苦手な生徒も取り組みやすい。 ・デジタルコンテンツの読み込みが早く、スピーチやグループディスカッションの箇所など、すぐに見ることができる。 ・生徒が教科書を開いた時に、どこを見たらいいのかわかりにくいため、全体の構成に統一感があればさらに良い。 ・資料編は説明があるため、参考書の代わりとしてはおもしろい。一方、全体的にわかりづらい表現が多い。 ・練習問題が PDF で記載されており、紙に記入する必要がある。 ※全ての選定委員から採択にふさわしい教科書との意思表示があった。